

様式3
令和6年度 香南市立幼稚園における学校評価報告書

香南市立野市東幼稚園

経営理念	【教育目標】 えがお かがやく ひがしの子 【経営目標】 『遊びを通して健康なこころからだを育む幼稚園』をめざす 〈子ども像〉 ○明るく元気な子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども ○思いやりのある子ども ○人やものに自分からかわろうとする子ども ○自分の思いを表現しようとする子ども 〈幼稚園像〉 ○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や知的好奇心を育てる幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 〈教師像〉 ○幼児との信頼関係を大切にする教師 ○創意工夫して保育する教師 ○意図的・計画的に環境を考える教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○保育の研究・研修に努める教師
------	---

中期経営目標		短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 幼稚園教育要領に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲及び態度を育てる。	① 異年齢同士が遊ぶ中で豊かな経験につなげる戸外の環境構成を行う。	子どもの姿や経験を基に職員間でほぼ毎日話し合い季節に応じた様々な素材や用具を準備して環境構成を行った。その結果、遊びのイメージや発想を促したり、興味や関心をもって自ら遊びに取り入れるなどの姿が増えてきた。遊びの展開が弱く感じた時には、保育者側から遊びの提案をしたりモデルとなる時もあった。	B	異年齢交流を効果的に取り入れているだけでなく、子どもの興味・関心に沿った環境づくりに力を入れていた。引き続き、保育を語り合いながら、のびのびとした保育を実施してほしい。	B	次年度は大きな集団に移行するので、子どもたちがどのようにして遊びたいと思っているのかを探り、興味のあるものを環境からすぐに取り出し遊びだすことができるように努め、職員間の連携も充実させていく。
		② 体を動かす遊びを通して、多様な動きを身に付けられる保育実践を行う。	毎週取り組んできたリズム運動を中心にして多様な動きが経験できるように意識して取り組んだ。継続して取り組んだことから、体を動かして遊ぶことが楽しくなり個々の自信につながった。その自信を支えられさらに難しいことに挑戦したい意欲も育むことができた。一人一人に目を向けると、身体面の発達のさや、興味の度合いの違いから個人差がみられる。	B	リズム運動を通し、体のしなやかさや体幹づくりに効果が現れている。また、チャレンジしようとする心情も育ちつつある。今後は、ボールを使った遊び等も取り入れ、いろいろな身体の動きを楽しんでいけるよう、継続して取り組んでほしい。	B	全職員が子ども一人一人に適した援助を行い、個々の基礎体力向上を支援するとともに、家庭生活の中でも身体を使って遊ぶ大切さを啓発していく。
		③ 子ども一人一人の内面理解に努め、生活や遊びに向かう意欲を引き出すための援助を行う。	様々な場面で見かけた子どもの姿をその都度側にいる保育者と共有し子どもの内面を推し量った。そのことが職員間の幼児理解につながり、子どもの気持ちに寄り添ったり、心をくすぐるような言葉がけにつながった。研修会等、全職員で多面的に幼児理解をする機会はずれなかった。	B	保育者の幼児理解により子どもが自分も友達も信じて成長している。また、保護者アンケートの『保育者は子ども一人一人をあたかく受けとめ、信頼関係を築くよう努めていると思うか』が高評価なことからも保育者の内面に寄り添った支援が充実していると読み取れる。	B	終礼やカリキュラム会等の話し合いの中で、一人一人の育ちについて互いの意見を交えることで多面的な見方ができるように努めていく。また、細やかな子どもの様子を伝え合える職員間の雰囲気大切にしながら、子どもの内面理解に努め保育に生かしていく。
職員の育成・資質向上や運営	○ 園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員がお互いに協働する風通しのよい幼稚園を構築する。	① 幼児が危険から身を守るための知識や態度を身に付けられる指導を行う。	小さな痛みや失敗を経験しながら少しずつ危険を認識していくことを踏まえ、危険を感じた場面ではその都度周囲の状況を見てどこか危険だったか考えて行動できるように振り返ったり、幼児自らが安全について考える機会を意識して作った。そうすることで、周りの様子や状況を見て危険なことを保育者に知らせることができる子どももいる。	B	安全教育が単に経験や訓練だけでなく、心情面についてもしっかりと育むことができている。次年度からは園児数も多くなるので、大きな怪我等につながらないように引き続き保育してほしい。	B	引き続き子どもを怪我や危険から遠ざけるだけでなく年齢に応じて因果関係が分かるように援助の仕方を考えたり、危機管理意識をもって保育にあたることを徹底する。
		② 園内外の研修の機会を活用して自己研鑽し、喜びや意欲をもって保育にあたる。	今年度は、1日勤務職員でティーチャーズトレーニングを継続して受講した。同じ研修を受講できたことで得た知識を積極的に活かす様子が見られた。その結果、保育者のポジティブな働きかけが子どもの変化や心情面での育ちにつながり、新たな支援方法の習得につながった。また、学びを取り入れた保育をしている同僚の姿が参考になり、これまでより肯定的な関わりが広がリスキルアップにつながった。	A	同じ研修を受講されたことで学びの実践や振り返り、子どもへの対応方法の話し合いなども増えたと思う。園全体で保育へ向かう意識が向上している。	A	この学びを継続していくために、担当者を園務に位置付ける。その他の研修を受講後は、復命し職員同士で共通理解を図るなど、学びを活かしていくよう体制を整える。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 保護者に子どもの姿や育ちを伝えるための工夫を行う。	多くの保護者がドキュメンテーションや便りを楽しみに目を通されていた。保育者は、子どもの姿から成長している場面を具体的に伝えたり、心情面での成長に重きをおいて発信できた。保護者に直接声をかけて補足することで表面的な育ちは伝わったが、心情面での育ち伝えることに難しさを感じる時もあった。	B	その都度情報発信をされ、写真を使って内容を具体的に伝えるだけでなく、心情面についても丁寧に伝えることができている。保護者アンケートの結果からも、子どもたちが楽しく過ごしていることが伝わっている。	B	写真以外に動画等でも発信ができるように職員の情報技術に関するスキルの習得をめざす。また育ちや経験を分かりやすく伝えるために事例研修などを用いて、子どもの姿の読み取りが深まる機会を作る。
		② 保幼小との連携・接続に向け、交流活動の充実に努める。	年度当初に保育所・小学校と連携をとったことで交流活動計画ができ1年間の見通しをもって取り組むことができた。また、各学年の職員同士が互いに働きかけたことで充実した交流活動をもつことができた。加えて小学校との交流では、当初の計画以外に5年生や4年生と縄跳び交流や合奏の披露などの交流ができたことで、子ども同士が知り合い、親しみを感じたり、相手に関心をもつようになり大きな成果となった。	A	保育所と小学校が隣接している立地を生かした交流活動ができている。教職員の連携や接続への意識が高まっている成果と思う。子ども達は、交流活動の機会を通して校種間の教職員を知ったり、身近な存在として親しみを感じてた。互いを知ることが大切だと思うので、子どもを中心とした連携をこれからも進めてほしい。	A	引き続き年度当初から年間交流計画を立て見直しをもった交流活動を実施していく。また、当初に計画はなくても互いに関心を寄せあい、スムーズな連携や接続になるように今後も顔の見える関係性を大切にしていこう。さらに接続期カリキュラムを充実させ、幼児期と児童期の「学び」をつないでいく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要